

例会報告

第2503回例会報告議事録

日時 29年11月28日(火曜日)

場所 川村学園女子大学 我孫子キャンパス内 会議室

時間 12:15点鐘

ロータリーソング「手に手つないで」

ゲスト：プロスノーボーダー
荒井"daze"善正 様

ビジター：なし

S.A.A.：依田会員

会長挨拶

服部会長



来月第一例会後に年次総会を行います。例会の時間内に行いますので終了時間は1時半で変わりません。来年度の役員理事を選出いたします。欠席される方は委任状をお出しいただきたいと思ひます。

今月はロータリー財団の月です。財団の寄付金の回覧をさせていただきました。3週目になります。是非よろしくお願ひいたします。

12月3日(日)は手賀沼ふれあい清掃に参加します。8時45分受付開始、9時清掃開始ですので、8時45分集合にしたいと思ひます。当日の実施要領の紙がありますので、参加される方はお持ちください。

同じ12月3日の夕方はクリスマス懇親会を新宿の叙々苑の個室で行います。バスの配車について後ほど親睦委員長よりお話があると思ひます。

12月26日は休会になります。新年例会は角松本店にて行います。どうぞ宜しくお願ひ致します。

親睦委員会報告

米田委員長

12月3日(日)の叙々苑での親睦会に参加される方には、バスの配車について後日ファックスをお送りします。どうぞよろしくお願ひいたします。

出席報告

渡邊委員長

19名出席(全員で26名) 出席率73.07%

欠席者が7名。

業務の為:荒井会員、今井会員、上村会員、志賀会員、澁谷会員、瀧日会員、福武会員、湯下会員

幹事報告

村越幹事

ふれあい清掃へのご参加をよろしくお願ひいたします。

卓話について

小池会員より

12月12日の卓話をWBA元チャンピオンのセレス小林さんという方にお願ひします。

先日、IBF世界スーパーバンタム級チャンピオンになった岩佐選手を育て上げたジムの会長さんです。ジムが柏にあります。どうぞよろしくお願ひいたします。

依田会員より

12月19日も外部卓話になります。

我孫子市のバードカービングで有名な内山春雄様です。どうぞよろしくお願ひいたします。

AIRA (アイラ) 祭りについて

依田会員



今週の日曜日に第26回AIRA(アイラ)祭りに村越幹事と参加して参りました。多くの外国人の方、日本人の方に参加していただき盛大に開催されました。ロータリークラブは協賛クラブとなっております。来年も開催されますので、お時間ありましたら遊びに来ていただければと思ひます。

土曜日には青少年相談員連絡協議会の方で小学5、6年の子ども達の綱引き大会がありました。今年で14回目ですが事情により今回で終了となりました。湖北小学校が1位、2位、3位を独占しました。



本日は貴重な機会をいただきまして誠にありがとうございます。

一般社団法人SNOWBANKの代表として献血骨髓バンクをアクションスポーツを通じて伝える活動をしつつ、プロスノーボーダーとして活躍しております。どういふいきさつでこういう活動をするようになったのか、現在どういふ活動をしているのかをお話しさせていただければと思います。

雪国で生まれ育った訳ではなく、千葉県船橋市に実家があります。高校の時にららぽーとの前にあったザウスという場所でスノーボードに触れる機会があったのですが、高校時代はプロサッカー選手を目指してサッカーを頑張っていて、スノーボードは遊び程度でした。

高校卒業後は就職しました。会社に入ると、学生時代のような部活動や体育祭などもなく、アクションを起こしてレスポンスがある、ということもなく、時間通りに出勤して帰宅し、何のために働いているのか悩む時間も多く、このまま60歳、65歳まで働き続けるのかと思うと不安になりました。

そんな頃に改めてスノーボードに会社の同僚と行くことになりました。以前に滑っていたので、上手に滑れて、同僚から「荒井、すごいな。かっこいいな」と会社に入って初めて褒められました。それがすごく嬉しくて、これが自分がやるべきことなんじゃないかとスノーボードにのめり込みました。当時夢がなかったのですが、いつかプロスノーボーダーになりたいという夢を持つ事ができました。

その会社に2年半勤めていたので、会社を辞めてまでプロスノーボーダーを目指す勇気はなかったのですが、そういう僕の考えを変えてくれたのは友人の突然の死でした。

成人式の1ヶ月前だったのですが、小学校、中学校、高校、会社まで一緒だった友人が亡くなりました。船橋のヤンキーの象徴のような友人だったのですが、会社員デビューをして、欲しかった車、彼女を手に入れて幸せでしようがないと言っていた彼が19歳で突然亡くなりました。彼の死で、明日何が起こるかかわからないということに気づかされ、今一歩踏み出さなければ何も始まらない、今行動しなくて何ができるんだという考えを教わりました。

そうして僕は会社を辞めてプロスノーボーダーを目指し始めました。新潟の上越国際スキー場で一年中トレーニングをしました。一年間、雪山で車に住んでいました。夏には、ニュージーランド、スイスへ行って氷河の上でトレーニングして、3、4年してプロスノーボーダーとしての技術を得る事ができました。が、スポンサーのついているプロスノーボーダーは自分のやりたいことを声を出して発信しているのに、僕や僕の周りのスノーボーダーは声をかけられるのを待っているスタンスでした。それに気づいてからは声に出して自分のやりたいことを伝えるようにしました。それからは20歳の頃に夢描いていたように、スポンサーもついて、雑誌やDVDにも出られるようになり、大きい大会にエントリーできるようになりました。



そんな頃に体調不良が表れ始めました。最初はちょっと足が痛くて整形外科に行きました。だんだん手が震えるようになったり、夜に微熱が続いたりしたのですが朝には下がっているので、当時、撮影に追われていたり、スポンサーの期待もあったので病院にも行かずに滑り続けていました。

だんだん悪化していき、膝まで麻痺してしまったり、手が震えたりしたのですが、無理を続けていました。

そんなある日、自宅で気を失い、気づくと救急隊員に囲まれていました。病院で脳髄膜炎と言われました。大きな病院で検査入院をしたら、一向に退院させてもらえず、さまざまな検査をしました。MRIやCTや全身麻酔による検査等いろいろな検査をしたのですが、病名は確定診断されませんでした。

そうやって3ヶ月、4ヶ月過ぎた頃、次の病院を紹介されたのですが、検査をし尽くしていたので、なかなか前に進みませんでした。そんな時、当時付き合っていた彼女、現在の奥さんなのですが、医療系に勤めていて、セカンドオピニオンという知識を持っていて教えてくれました。

今お世話になっているお医者様に失礼だと母親は反対したのですが、僕は検査データを持って柏の葉のがんセンターにセカンドオピニオンを受けに行きました。

その先生はデータと僕の話の間を聞き、「セカンドオピニオンじゃなくて、初診料がかかるけど診察に切り替えさせてくれないか」と言ってくれました。何故かと言うと、セカンドオピニオンというのは基本的にデータを見て話をするだけで、30分、1時間で2、3万円取られるのですが、触る事も血を抜く事もできないからです。検査をしたら2週間後に病名がわかりました。慢性活動性EBウィルス感染症という病気でした。ずっと病名がわからずにもがいていたので、それを聞いて嬉しかったです。(次ページに続く)

しかし慢性活動性EBウイルス感染症は、日本人の9割以上の方が持っているEBウイルスが異常増殖して臓器不全を起こして放っておくと亡くなってしまう病気でした。症例自体が少ない病気で、欧米人ではかかる人が少ない病気なので研究すらされておらず、原因もわからず、治療法も確立されていないし、薬もありませんでした。

唯一治った例が骨髄移植だと言われましたが、骨髄移植をしても3割くらいの人しか生き残れていない状況でした。

当時、そろそろ彼女と結婚を考えており、家財を見に行くのがデートコースになっていました。検査結果を彼女と聞きに行き、帰りにショッピングモールで家具を見ても「死んでしまうのだったら使う未来はないのかも」と思い、それからの一週間は情緒不安定になりました。

彼女に悲しい思いをさせるのも申し訳ないので、関係を考え直さないかと彼女に相談もしました。その時に彼女は「そんな軽い気持ちで私と付き合っていたのか。私はそんなつもりで付き合っていない。早く病気を治して幸せにして。あなたが前を向かないで誰が前を向くの」と怒ってくれました。



病人は自分で病人になって下を向いてしまうんだなと思いました。周りの人がみんな前を向いてくれたので、確立は少ないけど骨髄移植を受ける決心をしました。

慢性活動性EBウイルス感染症の専門医をネットで探して、見つけた先生に電話をかけました。その先生も荒井という苗字の女性の先生でした。今のコンディション、荒井さんの体力がある内に骨髄移植を受けた方がいいという積極的な提案をしてくださったのですが、その時、僕はお金を使い果たしていました。入院はあきらめて一旦働いてから治療を受けようかと考えていました。そんな事実を知ってくれたスノーボードの仲間がお金の事は気にしなくていいと言ってくれました。全国のスノーボーダー仲間が募金活動をしてくれ、あっという間に治療を受けられることになりました。

ところが、実の兄とは型が一致せず、骨髄バンクでも全国に14人しか一致するドナーがいませんでした。しかもその時提供できるコンディションの方はいませんでした。それからは毎日毎日骨髄バンクのホームページでドナーの数が増えているかチェックしていました。半年後、本当に運よく、型はフルマッチではありませんが、提供してくれるドナーが現れ、骨髄移植を受けることができました。

これでスグよくなる!と思いましたが、本当につらいのはそこからでした。

つらい放射線治療が始まり、輸血が始まり、やっと移植手術を受ける事が出来たのですが、今度は移植を受けた骨髄との闘いで、1か月位の間は40度以上の高熱が幾度も幾度も出て苦しみました。

しかし、今はたくさんの方のおかげでこのように元気になりました。

闘病後、自分を助けてくれた骨髄バンクのボランティア活動に力を入れるようになりました。

2011年からは「SNOWBANK」というイベントを毎年11月に代々木公園で開催しています。東京のど真ん中でスノーボードのイベントを開催して若者を集客し、骨髄バンクを知ってもらい、ドナー登録してもらえばいいんじゃないかと。現在では骨髄バンクや日赤の献血車も一緒に参加しています。

おかげさまでドナー登録者も毎年増えています。

更にこのイベントでは自分自身が全面に出る事で骨髄移植を受けてもこんなに元気になれる事を患者の皆さんに知ってもらい、勇気を持ってもらいたいと考えています。

「SNOWBANK」には株主ならぬ雪主というのがあります。このイベントで使用する雪を降らせる支援者を雪主と呼びます。このイベントには雪主様のご協力が不可欠です。皆様、今年はもう終わってしまいましたが、来年の開催にご理解ご協力を頂けたらと思います。

本日はありがとうございました。

荒井"daze"善正（あらい だぜ よしまさ）



SNOWBANK主宰/プロスノーボーダー

1979年東京都生まれ、千葉育ち。16歳の時にスノーボードを初体験、その後プロを目指して国内外で活動。2005年「慢性活動性EBウイルス感染症」を発症し、2008年に骨髄バンクを通じて骨髄移植。現在はプロスノーボーダーとして復帰、また骨髄バンクの普及やドナー登録推進のための活動にも精力的に取り組んでいる。2009年自らの体験を綴った「NO SNOWBOARDING NO LIFE スノーボードがくれた命」（トランスワールドジャパン株式会社）を出版。

<http://sbpif.net>

ニコニコBOX

お名前	メッセージ	金額
服部会長	荒井daze善正様 卓話ありがとうございました。	1,000円
村越幹事	荒井dazeさん 卓話ありがとうございました。	1,000円
小池会員	荒井さん 卓話ありがとうございました。	1,000円
佐藤会員	時間の早いのを実感する頃になりました。	1,000円
鈴木会員	卓話感謝。	1,000円
米田会員	卓話ありがとうございます。	3,000円
藤本会員	荒井さん ありがとうございました。 入会1年経ちました。	1,000円
当日計		9,000円
今期累計		167,000円

今週の表紙「旧村川別荘」我孫子市寿2丁目27番9号

手賀沼を愛した帝大教授、村川堅固が大正10年に設けた別荘です。子之神大黒天のすぐ隣の、沼を一望できる丘の中腹にあります。かつて我孫子には数多くの別荘がありましたが、当時のまま残っているのはここだけです。我孫子市の文化財に指定されており、市民ボランティアによるガイドも行われています。毎年9月には恒例の“竹灯籠の夕べ”が開催され、多くの来場者で賑わいます。

ロータリーの友事務局 ホームページ www.rotary-no-tomo.jp メールは web@rotary-no-tomo.jp

環境NPOオフィス町内会が中心となって2005年に立ち上げた新たな間伐促進活動が「森の町内会」です。この活動に賛同して「印刷用紙」や「コピー用紙」を使用する企業は2009年9月現在、92社にのぼり、その環境貢献として促進される岩手県岩泉町・葛巻町・青森県三沢市での間伐は、年間30haの規模になっています。グリーン購入大賞で大賞を、山村カコンクールで林野庁長官賞を受賞しています。



この印刷物に使用している用紙は、森を元気にするための間伐と間伐材の有効活用に役立ちます。

我孫子ロータリークラブは、環境貢献として、「森の町内会」を応援します。